

広島県投擲記録会実施上の感染拡大予防ガイドライン

本ガイドラインは、「学校の新しい生活様式」（文部科学省）、「社会体育施設の再開に向けた感染拡大予防ガイドライン」（スポーツ庁）及び日本高等学校野球連盟が作成した「新型コロナウイルス感染症防止対策ガイドライン」等を踏まえて、現段階で得られている知見等に基づいて作成しています。

今後の知見の集積及び新型コロナウイルスの感染状況により逐次見直すことがあり得ることに御留意ください。

1 大会実施に当たっての基本的考え方について

大会の実施に当たっては、「学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル～「学校の新しい生活様式」～」（文部科学省）及び令和2年5月22日教育長通知「県立学校における学校再開について」を踏まえ、「社会体育施設の再開に向けた感染拡大予防ガイドライン」（スポーツ庁）、「スポーツイベント再開に向けた感染予防ガイドライン」（公益財団法人日本スポーツ協会・公益財団法人日本障がい者スポーツ協会）及び「都道府県独自の試合・大会新型コロナウイルス感染症防止対策ガイドライン」（公益財団法人日本高等学校野球連盟）等を参考に、「広島県新型コロナウイルス感染症対策専門員会議」の助言を得て、次の大会実施に当たっての基本的な考え方に基づき、新型コロナウイルス感染症の感染防止策を講じることとする。

【大会実施に当たっての基本的な考え方】

- (1) 感染源を絶つ
- (2) 感染防止の3つの基本
 - 身体的距離の確保
 - マスクの着用
 - 手洗いの徹底
- (3) 3つの「密」（密閉空間、密集場所、密接場所）の回避
- (4) 安全な活動環境等の確保

2 大会実施時の感染防止策について

(1) 感染源を絶つ

- 主催者は、風邪の症状（発熱、咳、鼻汁、咽頭痛、頭痛等）がある選手や引率者等は、大会に参加させないことを徹底する。
- 主催者は、各校の選手及び引率者等の1週間分の体調を記録した体調管理チェックシート（別紙1）の記録を求め、健康管理を徹底する。
- 主催者は、大会当日受付時等に、チーム同行者体調記録表（別紙2）の提出を求め、選手や引率者等の体調を確認するとともに、大会中、選手や引率者等に体調不良がある場合は、大会本部に申し出るよう場内アナウンス等で確認を促す。
- 主催者は、チーム同行者体調記録表（別紙2）に記載された者以外の来場者に対し、来場者体調記録表（別紙3）に、氏名・年齢・住所・連絡先（電話番号）・検温した体温・来場前1週間におけるア：平熱を越える発熱、イ：咳や喉の痛みなど風邪の症状、ウ：だるさ（倦怠感）、息

苦しさ（呼吸困難）、エ：味覚や嗅覚の異常、オ：過去 14 日以内に政府から入国制限や入国後の観察期間を必要とされている国や地域などへの渡航歴及び当該在住者との濃厚接触の有無の確認と、来場後 2 週間以内に新型コロナウイルス感染症を発症した場合は、主催者に対して速やかに報告することを確認する。

- 引率者等は、集合時、更衣後、ウォーミングアップ終了後、試合前後、昼食時、解散時等、こまめに、選手の体調不良の有無を確認する声かけを行うなど、集合時から解散時まで生徒の健康観察を徹底する。
- 主催者及び引率者等は、大会中に、選手等の体調不良を確認した場合、大会救護係や医療機関及び保護者等と連携し、当該選手の体調を確認するとともに、安全に帰宅させるなどの対策を講じる。

(2) 感染防止の 3 つの基本

ア 身体的距離の確保

- 開会式等は実施しない。また、抽選会は、必要最小限の人数によって代理抽選とする。
- 主催者は、引率者会議等を実施する場合、人と人との間隔が、できるだけ 2 メートル（最低 1 メートル）空くよう、椅子の配置を広くするなどの工夫をする。
- 引率者等は、集合時、待機中、休憩中及び食事中などにおいて、選手同士の間隔が、できるだけ 2 メートル（最低 1 メートル）空くように指導する。
- 主催者、指導者等は、対戦相手や審判等との握手、仲間と手をつないだり肩を組んだりして行う円陣、ハイタッチなどの実施を制限する。

イ マスクの着用

- 主催者は、選手、引率者等及び大会関係者に、マスク等を準備させ、大会中は、競技等実施時及び食事中を除いて、基本的にマスク等を着用し、咳エチケットを徹底するよう指示をする。ただし、活動中や気候の状況等より、熱中症などの健康被害が発生する可能性が高いと判断した場合は、マスクを外すよう選手に指導する。
- マスク等を着用して運動を行う場合には、同じ運動であっても、体へ高い負荷がかかり、低酸素症や熱中症などのリスクが高まるため、主催者や引率者等は、会場の気温や湿度に注意しながら、選手の健康観察を行うとともに、こまめに給水をさせる。その際、給水用のコップ等を共用させない。

ウ 手洗い等の徹底

- 主催者は、選手、引率者等及び大会関係者が、こまめに手洗いを行えるよう、利用する施設と連携し、手洗い場に十分な量の石けん等を設置するとともに、場内アナウンス等で、選手や引率者等に手洗いを促す。
- 主催者は手洗い場等に「手洗いは 30 秒以上」の掲示をし、手洗い後に手を拭くためのペーパータオル（使い捨て）を準備する。
- 引率者等は、集合時、更衣後、ウォーミングアップ終了後、試合前後、昼食前後、解散時等、こまめに、流水と石けんで手洗いを行うよう、選手に指導する。

(3) 3つの「密」（密閉空間、密集場所、密接場所）の回避

- 原則、無観客試合とする。なお、試合会場への入場は、出場選手として登録された選手、引率者及び大会関係者のみとし、出場選手として登録されていない部員やマネージャーの入場については、利用する会場や施設の状況、各専門部の加盟生徒数等を考慮し判断する。
- 主催者は、試合会場を複数設けるなどし、選手、引率者等の会場への移動が短縮できるよう工夫する。
- チームでまとまって会場へ移動する場合、引率者等は、バス等の車内が、密閉空間にならないよう、運転手と連携し定期的に換気をしたり、1台に乗車する人数を減らしたりするなどの工夫をする。
- 主催者は、更衣室で選手が密集しないよう、一度に利用できる人数を制限し明示する。また、更衣室内に選手同士の間隔ができるだけ2メートル（最低1メートル）空くよう目印テープを貼付するとともに、更衣室の換気扇を常時運転したり、換気用の小窓を開ける等、換気に配慮する。
- 主催者は、屋内で実施する競技において、会場内で人が密集しないよう、一度に会場に入れる人数や学校数等を制限するなどの工夫をする。
- 主催者は、屋内で実施する競技において、1時間に2～3回程度、会場のドアや窓を開け換気を行うなどの工夫をする。その際、試合会場の窓等の開閉が困難な場合は、利用する施設と連携し、換気施設を適切に運転する。この場合においても、1時間に2～3回程度、会場の入口等を開け換気を行うなどの工夫をする。
- 主催者及び引率者等は、試合会場のベンチや食事をする場所について、できるだけ2メートル（最低1メートル）空くよう、選手同士の間隔を取らせ、対面をさけ、会話は控えるよう指導する。

(4) 安全な活動環境等の確保

- 試合に関わる全ての者（大会役員、審判、指導者、選手）は、試合が開始される1週間前からの体調を、大会前体調管理チェックシート（別紙1）に記録する。また、大会後の2週間の体調を大会後体調管理チェックシート（別紙4）に記入する。
- 引率者以外の競技役員は、来場者体調記録表（別紙3）を大会期間中毎日、役員受付時に提出する。
- 社会体育施設を利用して大会を実施する場合は、「社会体育施設の再開に向けた感染拡大予防ガイドライン」（スポーツ庁）に則り運営する施設を選定し、感染拡大予防対策について、事前に施設と打合せを行う。また、学校施設を利用して大会を実施する場合は、令和2年5月22日付け教育長通知「県立学校における学校再開について」等に基づき、感染拡大予防対策について、事前に、会場となる学校の教職員と打合せを行う。
- 主催者及び選手・引率者等は、大会に向けて適切な感染防止策を行うため別紙「競技会実施時の感染防止対策チェックリスト」に沿って行う。

3 各競技特性に応じた感染防止策

※ 大会に関係する全ての人に周知徹底してください。

< 陸上競技 > 日本陸上競技連盟 陸上競技再開についてのガイダンス 競技会開催について（第2版）より

1 感染防止対策を講じる

(1) 3密を回避（密閉・密集・密接）する

- ・ソーシャルディスタンス確保の工夫（部屋のレイアウト変更）
- ・室内換気の確保
- ・集合時間をずらした行動 など

① 密閉空間（換気の悪い密閉空間である）の対策

陸上競技場諸室／屋内練習場／更衣室内の室内換気を徹底する。

② 密集場所（多くの人が密集している）の対策

陸上競技場諸室／招集所／雨天時室内練習所／スタート待機所／フィールド待機所において、ソーシャルディスタンスを確保できる使用人数に制限する。

③ 密接場面（互いに手を伸ばしたら届く距離での会話や発声が行われる）の対策

陸上競技場諸室／チームベンチ／スタート待機所／フィールド待機所において、ソーシャルディスタンスを確保できる使用人数で制限すること。また物品の受け渡しは極力避け、避けられない場合は、手指消毒をする。

(2) 競技者に対し実施する

① 競技者に対し競技会1週間前からの検温を義務付け、指定の体調管理チェックシート（別紙1）に記載し、受付時にチーム同行者体調記録表（別紙2）にまとめ、提出させる。

主催者はチーム同行者体調記録表（別紙2）を提出していないチームを、出場不可とすることができる。

② 疑わしい競技者がいた場合は、その場で検温を実施し、状況により参加を許可しない。

③ マスク着用の義務（運動時を除きマスクの着用を義務とする）を競技会大会要項に記載する主催者はマスクをしていない人に対し注意を促す。

④ 手洗い・手指消毒・洗顔を欠かさないよう注意喚起する。

(3) 参加競技者、チーム関係者・大会/競技役員・メディア、大会運営関係者に感染者、濃厚接触者、感染疑い者の参加、従事の可否

原則として行政、学校等の所属の対応方針を優先すること。

①感染者への対応

大会開催2週間前の時点もしくはそれ以降にPCR検査もしくは抗原検査陽性反応があった場合、当該選手、チームは参加を辞退するまたは主催者による出場権利の取り消しを行う。

②濃厚接触者への対応

保健所から濃厚接触者と認められた場合、感染者と最後に接触した日から14日間にわたり健康状態を観察する期間を経過し、更に回復（練習）期間として判定を受けた次の日からの日数分を充てる。その時点で、症状が出ていない選手の出場を認めても構わない。

（例）感染者との最後の接触から5日目に濃厚接触の判定を受けた時、残り9日間の自宅待機が必要となり、更に同日数分（9日間）を回復期間として充てる。

③感染疑い者への対応

大会開催2週間前の時点、もしくはそれ以降に感染疑い症状（※）が発症していた場合、インフルエンザ等の新型コロナウイルス以外の感染症のリスクもある為、原則当該選手は参加を辞退するまたは、主催者による出場権利の取り消しを行う。

但し、次の1)及び2)の両方の条件を満たしている場合、大会への出場を認めても構わない。

1)感染疑い症状の発症後に少なくとも8日が経過している。(発症日を0日として8日間のこと。)

2)薬剤を服用していない状態で、解熱後および症状消失後に少なくとも3日が経過している。(解熱日・症状消失日を0日として3日間のこと。)

※感染疑い症状とは

▼息苦しさ(呼吸困難)、強いだるさ(倦怠感)、高熱等の強い症状のいずれかがある場合。

▼重症化しやすい方(高齢者、糖尿病・心不全・呼吸器疾患(COPD等)等の基礎疾患がある方、透析を受けている方、免疫抑制剤や抗がん剤等を用いている方)で、発熱や咳などの比較的軽い風邪の症状が場合。

▼上記以外の方で「発熱や咳などの比較的軽い風邪の症状」が続く場合(症状が4日以上続く場合は必ず、「強い症状」と思ふ場合はすぐに相談を。解熱剤などを飲み続けなければならない方も同様。)

(4) 室内清掃・消毒の準備を整える

(5) 審判員と選手の動線をできる限り分ける

2 対象者毎の配慮事項

(1) 共通事項(主催者は競技会に関わる全ての人に以下の内容を伝える)

① 日々の体調管理を怠らず、検温を行い、万一体調不良や平素より高い体温が認められる場合は参加しない。

② マスク着用、手洗い・洗顔を欠かさない。

【注意】炎天下の活動時におけるマスクの着用について

・気温31度以上の環境において、マスクの着用はせず3密回避、ソーシャルディスタンスの確保等の感染予防対策を徹底すること。

・諸室等の空調の効いた密閉空間ではマスクを着用すること。

③ 3密回避行動を心掛ける。

④ 競技会の規模、目的に応じて参加資格に制限をかける。

・参加資格記録等でレース数、組数の調整をする。

・参加者数に応じた審判員を委嘱する。(年齢も考慮する)

(2) 競技者(要項・プログラム等に記載する)

① 競技者の体調管理チェックシート(別紙1)をチームの代表者がチーム同行者検温確認表(別紙2)に取りまとめて主催者に報告・提出する。

② ウォーミングアップは密を避け、個別に行う。

③ 競技用具使用前後は手洗いをする。

④ 更衣室の滞在は短時間にする。

⑤ 運動中につばや痰を吐かない。

⑥ 体液の付着したゴミは自己責任でビニール袋に密封し処理(基本的に持ち帰り)する。

(3) 主催者/競技役員(以下を伝え、必要に応じ委嘱状・マニュアル等に記載する)

① 主催者は文書・メール等を活用し、事前打ち合わせを減らす工夫をする。

② 主催者は参加者数に応じた審判員を委嘱する。

③ 主催者は新型コロナウイルス感染症が重症化しやすい65歳以上の競技役員には出来る限り委嘱しないこととする。

④ 新型コロナウイルス感染症が重症化しやすい基礎疾患(糖尿病、心不全、呼吸器疾患、高血圧、透析を受けている者、免疫抑制剤や抗がん剤等を用いている方等)を持っている者は委嘱を受けた後速やかに主催者に申し出て競技役員を辞退する。

- ⑤ 主催者・競技役員は競技者との接触を減らす工夫をする。
 - ⑥ 競技役員は3密の回避行動を心がけ、マスクの着用、眼鏡（サングラス可）、手袋（緊急時にすぐ着けられるように携帯する）を用意する。
- (4) チーム関係者・応援者（事前通知及び当日会場内でアナウンスし注意喚起をする）
- ① 競技場客席、競技場共有エリアでは3密を防ぐためチーム関係者など待機スペースとして使用することを許可する。
 - ② 声を出しての応援、集団での応援は行わない。
 - ③ 競技者に付き添う場合は、必ずマスクを着用し、競技者とソーシャルディスタンスを確保するとともに、接触および会話に注意する。
 - ④ 混雑を回避するため、競技者に付き添う者のウォームアップ場への立ち入りを禁止する。

3 競技種目毎の配慮事項

(1) 競技運営・種目共通の配慮事項

- ① 3密を回避できる1日の競技会の参加人数を設定する。
参加人数制限やレース間隔は行う競技会の特性によるため、実施する競技種目により、運営内容について検討する必要がある一方で、感染防止策が取れる方法で、実施する競技種目を決定するという方法もある。どちらを選ぶかは主催者の判断とする。
- ② スタート待機及び招集時間を分割し密集を防ぐタイムテーブルを設定する。
- ③ 競技開始前（招集～スタート地点での待機）
3密の回避として、招集時刻を分散化（細分化）し、招集所は競技者同士の距離はソーシャルディスタンスを確保し、手続きの簡略化（滞在時間の短縮）を行う。
- ④ 滞在時間の短縮のため選手紹介は簡略化する。
- ⑤ 競技中・フィニッシュ後に倒れ込んだ競技者のケアについては、防護体制を整えたスタッフで対応する。
- ⑥ レース後は、手洗いへ直行する動線を確保し、手洗い・洗顔を徹底するように促す。
- ⑦ 中長距離レースについては、他の種目と同様、上記③～⑥を徹底し、スタート整列時に接触しない人数でレースをすることを基本とする。
- ⑧ 記録発表については、掲示板の前に人だかりができないように掲示場所の分散化やWebを活用した発表をするなどの工夫をする。
- ⑨ 開会式・閉会式・表彰式は原則、実施しない。

(2) トラック種目の配慮事項

- ① 2～3組ずつスタート地点に誘導し、待機場所にゆとりを持たせる（ソーシャルディスタンスの確保）。
- ② フィニッシュ後に長時間止まることを防止する。
- ③ マスクは招集中・移動中・待機中は着用してもらうよう指導する。あわせてマスク着用による熱中症についても注意喚起する。
- ④ 給水の競技役員・補助員は競技開始前に改めてアルコール等で手指を消毒し、マスクや手袋、フェースシールド（またはゴーグル）等を着用する。
- ⑤ 混成競技者控室は原則設けない。

(3) フィールド種目の配慮事項

- ① 待機場所における選手同士のソーシャルディスタンスを確保し、競技役員は注意を促す。
- ② 投てき器具やすべり止めを共用禁止にする必要はない。
競技中に不用意に手で顔を触らぬように注意をすることで対応する。あわせて、競技終了後に手洗い・洗顔を実施させる。跳躍種目における着地マットや砂場も同様である。
- ③ コーチがスタンドから下に向かって話す際は、マスク着用の上、ソーシャルディスタンスを確保して、話すよう注意する。
- ④ 助走練習、投擲練習時に並ぶ時はソーシャルディスタンスを確保するか、あるいは競技役

員が1人ずつ順番に呼び出す形式をとる。

- ⑤ 選手同士の会話は極力避け、待機中はマスクを着用するよう注意喚起を促す。
- ⑥ 競技役員・補助役員の手旗、パソコン、計測器などの共用は極力避けるが、共用する場合には、使用前後に手洗い、機器の消毒を行う。

4 施設における配慮事項

(1) 施設入場時の配慮事項

- ① 競技役員及び競技者受付所など、対面して受付を行う場所にシールド（透明なシートなど）を設置する。
- ② 受付やゲートにて、体調不良が疑われる者に検温を実施する。
- ③ 手指消毒剤を提供する。
- ④ ソーシャルディスタンス確保の呼びかけを行う。（整列に必要なマークの設置）

(2) 施設利用上の配慮事項

- ① 常時換気を実施する。（窓開け・戸開けの実施）
- ② 諸室・招集所などの座席配置を工夫する。（ソーシャルディスタンスの確保）
- ③ 拡声器・通信機器を利用する。
- ④ 直接の接触回避の工夫を行う。
- ⑤ 多くの者が接触する可能性がある箇所の清掃（消毒）頻度を増加する。（施設所有者・管理者に確認すること）
- ⑥ 雨天時の待避場所の確保・終了後、施設・設備・用器具の清掃・消毒を行う。
- ⑦ トイレの清潔化を徹底する。（便座の蓋をしてから流すことを徹底する）
- ⑧ 喫煙所を設置しない。
- ⑨ ゴミ箱を撤去し、ゴミは各自持ち帰るように事前に周知し、かつアナウンスをする。
- ⑩ 発熱者が出た場合の、隔離用の部屋を確保する。（適切な部屋が確保できない場合は、飛沫感染防止可能なカーテン、パーテーションで仕切ったコーナーを用意する）

(3) ウォーミングアップ会場の配慮事項

- ① ソーシャルディスタンス確保の工夫をする。
- ② トレーナーステーションは設置しない。
- ③ ウォーミングアップ会場への付き添い・観戦を禁止する。

5 メディア・取材への配慮事項

(1) 主催者の対応事項

- ① 大会主催者は報道各社向けの大会取材要項を作成し、メディアの履行義務事項などを記載し、取材の事前申請を受け付ける。事前申請のない競技会では、大会HPやプレスリリースを通じて周知する。また、当日の受付でも「しおり」などをもとに確認・徹底する。

(2) 取材人数について

- ① 会場（取材エリア／ミックスゾーン／撮影エリア／プレスルームなど）の規模により人数を設定し制限すること。（例）1社1名（取材・撮影兼務）or 取材／撮影 各1名 など

(3) 取材方法について

- ① ADカードまたはビブスを用意して報道取材者を管理する。
- ② 報道受付では事前に用意した体調管理表の提出を求める。
- ③ ミックスゾーンを設置する場合は柵などでソーシャルディスタンスを確保し、3密を防ぐ。
- ④ 囲み取材・インタビューは、競技者同意のもとソーシャルディスタンス（競技者と取材者および取材者同士の距離）を確保し実施する。

(4) 取材・撮影エリア

- ① 撮影エリアはソーシャルディスタンスで区切る。
または、主催者が設定した撮影エリア内でのソーシャルディスタンスをカメラマン同士で調整するよう促す。

(5) 報道取材者の協力事項

- ① 取材時のマスク着用を義務づける。
- ② 会場内では手洗いや咳エチケットなどの実施を心がける。
- ③ 取材人数・取材方法・取材エリアを遵守する。
- ④ クルーを少人数化する。

別 紙 一 覧

<input type="checkbox"/>	【別紙 1】 大会前 体調管理チェックシート
<input type="checkbox"/>	【別紙 2】 チーム同行者体調記録表
<input type="checkbox"/>	【別紙 3】 来場者体調記録表
<input type="checkbox"/>	【別紙 4】 大会後 体調管理チェックシート
<input type="checkbox"/>	参加チーム用チェックリスト

大会参加までの流れ(フロー図)

【選手・保護者】



【学校、チーム】

参加選手の健康面を踏まえ
大会参加の可否を判断する

選手は、大会前の1週間分の(別紙1)体調管理シートを記入
※大会が次週も継続する場合は継続して記入

指導者は、(別紙1)体調管理シートをもとに日々選手の体調を確認、変更・出場自粛等あれば、熊野高校 山本に連絡

引率者は、大会当日、選手及び引率者の1週間分の記録内容を、(別紙2)チーム同行者体調記録表にまとめて記入し、大会本部に(別紙2)のみ提出、※(別紙1)体調管理シートは指導者が保管

引率者は、大会前の1週間分の(別紙1)体調管理シート、(別紙4)体調管理シートを記入 ※大会が次週も継続する場合は継続して記入

【全ての関係者(選手・引率者以外)】

(別紙1)体調管理シート記入
(別紙4)体調管理シート記入

(別紙3)来場者体調記録表提出

※ (別紙4)体調管理シートは、罹患者が発生した時に必要となる場合があるため、大会終了1ヶ月程度、各自で保管しておくこと。

(別紙 1)

第 回広島県投擲記録会



【大会前／提出用】新型コロナウイルス感染症についての体調管理チェックシート

本チェックシートは大会において新型コロナウイルス感染症の拡大を防止するため、参加者の健康状態を確認することを目的としています。本チェックシートに記入いただいた個人情報については、厳正なる管理のもとに保管し、健康状態の把握、来場可否の判断および必要なご連絡のためにのみ利用します。また、個人情報保護法等の法令において認められる場合を除き、ご本人の同意を得ずに第三者に提供いたしません。但し、大会会場にて感染症患者またはその疑いのある方が発見された場合に必要範囲で保健所等に提供することがあります。

個人情報の取得・利用・提供に同意する

※大会1週間前から記入し、大会当日、引率者に提出すること

※該当しない場合は✓を入れ、該当する場合は○を記入すること（体温0.1℃単位の数字を記入）

大会当日

No.	チェックリスト	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日
1	のどの痛みがある									
2	咳（せき）が出る									
3	痰（たん）がでたり、からんだりする									
4	鼻水（はなみず）、鼻づまりがある ※アレルギーを除く									
5	頭が痛い									
6	体のだるさなどがある									
7	発熱の症状がある									
8	息苦しさがある									
9	味覚異常(味がしない)									
10	嗅覚異常(匂いがしない)									
11	体温	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃
12	薬剤の服用(解熱剤を含む上記症状を緩和させる薬剤)									

氏 名

所属（学校名、団体名など）

※参加者が未成年の場合

保護者氏名

緊急連絡先（電話番号）

大会参加者

顧問

コーチ

保護者

NO.

令和 年 月 日

チーム同行者体調記録表

学校名 () 引率者氏名 ()

- ① 平熱を超える発熱 (概ね 37 度 5 分以上) ② 咳 (せき), のどの痛みなど風邪の症状
- ③ だるさ (倦怠感), 息苦しさ (呼吸困難) ④ 味覚や嗅覚の異常

NO	氏名	本日の 体温 (°C)	体調記録表 (1 週間の間) において, 異常がなければ各項目に✓をすること。				備考
			①	②	③	④	
引率者		.					
引率者		.					
1		.					
2		.					
3		.					
4		.					
5		.					
6		.					
7		.					
8		.					
9		.					
10		.					
11		.					
12		.					
13		.					
14		.					
15		.					
16		.					
17		.					
18		.					
19		.					
20		.					
21		.					
22		.					
23		.					
24		.					
25		.					

※枠が不足する場合は, 用紙を追加してください。

来場者体調記録表

所属 () 氏名 ()

1 記入事項

※ 個人情報取得については、大会終了後に参加者から新型コロナウイルス感染の発症があったと報告を受けた場合に必要となる拡大の予防対策措置のためであり、その目的の達成に必要な範囲内で使用します。なお、主催者側で1か月程度保管し、その後は破棄します。

(1) 以下の事項に該当する場合は、自主的にご参加を見合わせてください。

- ① 体調がよくない(例：発熱・咳・咽頭痛などの症状がある場合)
 - ② 新型コロナウイルス感染症陽性とされた者との濃厚接触がある
 - ③ 同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる
 - ④ 過去14日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある
- 該当しない ・ 該当する

(2) 連絡先等

氏名 () 年齢 () 歳

住所 ()

電話番号 ()

(3) 本日の体温 () °C

(4) 前2週間における以下の事項の有無(いずれかに○をしてください。)

- ① 平熱を超える発熱(概ね37度5分以上) 有・無
- ② 咳(せき)、のどの痛みなど風邪の症状 有・無
- ③ だるさ(倦怠感)、息苦しさ(呼吸困難) 有・無
- ④ 臭覚や味覚の異常 有・無
- ⑤ 体が重く感じる、疲れやすい等 有・無

2 確認事項

- (1) マスクを着用すること(受付参加時や着替え時の競技を行っていない際や会話をする際にはマスクを着用すること。)
- (2) こまめな手洗い、アルコール等による手指消毒を実施すること。
- (3) 他の参加者、主催者スタッフ等との距離(できるだけ2m以上)を確保すること(障害者の誘導や介助を行う場合を除く。)
- (4) 大会開催中に大きな声で会話、応援等しないこと。
- (5) 感染防止のために主催者が決めたその他の措置の遵守、主催者の指示に従うこと。
- (6) 大会終了後2週間以内に新型コロナウイルス感染症を発症した場合は、主催者に対して速やかに濃厚接触者の有無等について報告すること。
- (7) 大会関係者は行動履歴書を記載し、感染者発覚の際は濃厚接触者特定のために必要となる場合もあるため、大会終了後も1ヶ月程度保管しておくこと。
- (8) その他
(各競技の特性上注意することとして確認しておきたいことを記入する。)

(別紙4)

第 回広島県投擲記録会



【大会後／個人管理用】新型コロナウイルス感染症についての体調管理チェックシート

※大会終了後2週間は健康チェックをすること。

※該当しない場合は✓を入れ、該当する場合は○を記入すること（体温0.1℃単位の数字を記入）

No.	チェックリスト	月日													
1	のどの痛みがある														
2	咳（せき）が出る														
3	痰（たん）がでたり、からんだりする														
4	鼻水、鼻づまりがある ※アレルギーを除く														
5	頭が痛い														
6	体のだるさなどがある														
7	発熱の症状がある														
8	息苦しさがある														
9	味覚異常(味がしない)														
10	嗅覚異常(匂いがしない)														
11	体温	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃

※症状が4日以上続く場合は必ず最寄りの保健所、診療所等に報告してください。症状には個人差がありますので、強い症状と思う場合にはすぐに報告してください。

※保健所、診療所等に相談後、必ず大会主催者に報告してください。

「競技会実施時の感染防止対策チェックリスト」

【選手・引率者等用】

<input type="checkbox"/>	試合1週間前からの自身の体調を記録している。
<input type="checkbox"/>	風邪の症状(発熱, 咳, 鼻汁, 咽頭痛, 頭痛等)はない。
<input type="checkbox"/>	朝, 検温を実施し, 発熱が無いことを確認している。
<input type="checkbox"/>	マスクを準備している。
<input type="checkbox"/>	タオルやハンカチを準備している。
<input type="checkbox"/>	会場に移動する際, 感染防止対策を講じている。
<input type="checkbox"/>	手洗いを実施する。 (会場到着時・更衣前後・試合前後・食事前後・解散時 等)
<input type="checkbox"/>	更衣室が密集しないよう, 適切に使用している。
<input type="checkbox"/>	常に, 他の選手, 大会関係者等との距離を, できるだけ2メートル (最低1メートル)確保している。
<input type="checkbox"/>	給水するためのコップ等を共用しない。
<input type="checkbox"/>	食事の際, 間隔を取って座り, 対面をさけ, 会話は控える。
<input type="checkbox"/>	